

ガラパゴス編集後記

第 8 版

今回の編集はシナリオ作成約 3 ヶ月、映像編集 5 0 時間以上、アフレコ 1 0 時間以上、選曲 C D 1 0 0 枚以上です。

1 . 海の生物

ガラパゴスの雨季 (1 月) はコスタリカ ココ島の雨季 (8 月) より天気が悪かったので海の中が非常に暗く、水中撮影はかなり難しいです。

特にハンマーヘッドはココ島と比較すると水深が深く、非常にシャイで 3 m 以内には決して近づいて来ないのでズームを多用したため、画質が若干悪くなりました。

2 . 陸の生物

岩の上にいるペンギンをシュノーケルで水面移動して近づき、岩の上に昇ってから水中ハウジングのレンズ面の水滴を拭いて乾かしながら撮影しましたが、瞬間吸収材を使用しても中々乾かず、小さい水滴がレンズの邪魔をしてピントを合わせるのに大変苦労しました。

フラミンゴの撮影で 2 0 0 m 以上離れていたため、1 0 倍のデジタルズームでは被写体が小さいので、デジタルズーム機能を外して撮影したところ、大きくなったので、そのまま録画し帰国して再生してみると、ほとんどの映像がピンボケになっていたため編集に使用できたのは 1 5 分録画の内、たったの 1 0 秒ぐらいでした。ファインダのモノクロの小さい映像では気が付かずに大変残念でした。(視力低下を痛切に感じました。次回からは絶対目がねを使用します)

3 . S K Y ・ D A N C E R

クルーズ船 S K Y ・ D A N C E R のクルー全員を撮影し編集に入れましたが、肝心の船長の撮影を忘れました。S K Y ・ D A N C E R は 1 , 1 0 0 k m の行程を 1 1 日間かけて夜に移動するため、船長は夜に操舵し昼間はほとんど寝ていました。

4 . シナリオ

オープニングは最初の構想では現地にいる時から海イグアナの顔のドアップでスタートする予定でした。しかし、選曲した音楽が海イグアナにアンマッチのため、結局オープニングは景色になりました。

5 . アフレコ

7 / 2 7 にビデオがやっと完成したと思ったら、海の音楽が迫力のある映像に負けて、当初イメージしたものとアンマッチでした。

ガラパゴスにいる時は陸の生物が非常に強烈な印象を与えるため、海はコスタリカのココ島の方がスゴイと感じていました。しかし、これは陸の生物が強烈

なため海の印象が弱く感じた錯覚でした。これはガラパゴスのクルーズで一緒になった日本人（ココ島も行ったダイバー）もそう感じていたそうです。

S K Y ・ D A N C E R 下船後のサンタ・クルス島内観光スポット及びガラパゴスで見れる海と陸の生物を調査するため、出発の1年前からガラパゴスのドデカイ専門書及び図鑑を購入して、かなりの知識を頭に入れました。また進化論の影響もありましたが、赤道直下にペンギン、アシカ、アザラシなどがいれば誰でもスゴイと感じると思います。更にガラパゴスにしか生息していない海イグアナ、ガラパゴスゾウガメ、道具を使うダーウィンフィンチなども強烈な印象を感じました。

現地で感じたイメージを帰国後にシナリオへ反映しましたが、映像編集後のアフレコ段階では部分毎に作業するため気づかず、すべての編集完成後1回目の通しチェックで初めて絵と音のアンマッチに気が付きました。

7 / 2 8 から持っているリラクゼーションCD 1 0 0 枚以上から海の音楽を必死に探し、8月初めにCD 7 枚を買い、やっと7曲見つかったと思ったら、今度は陸の曲が海の音楽とのメリハリがなくなって、これまた探し直しになりました。

結局、オープニング、S K Y ・ D A N C E R、エンディングとアペンディックス以外の本編の音楽すべてをアフレコし直しました。

私のアフレコの基本姿勢は1回使用した曲は2度と使用しないのが原則ですが、今回は海にマッチする迫力のあるすばらしい曲が中々見つからず、結局バンゲリスの『南極大陸』とロバート・マイルズの『チルドレン』を再度使用することになりました。本当は使用したくなかったのですが、もし今後もっと良い曲に巡り会えたら差替えるつもりです。

6 . インフラ

8月にテープを渡したダイビングショップでハンマーヘッドの画質が悪いことに気づき、カメラのナニワでいろいろ調査したところ、SONYテープデッキ2台のヘッドの劣化と分かりました。10年前の製品のため修理を諦めてテープデッキ1台を新規に購入することになりました。

カメラのナニワでいろいろ検討した結果、将来のことを考えてパナソニックのDVD録画機(D I G A)を1台購入することになりました。

購入した翌日、新規2台の機器が電源OFFにも係わらず異常に発熱しているため調べたところ、古いOAタップの不良と分かり、結局SONYテープデッキ2台の不調の原因はこの古いOAタップと断定できました。

ハンマーヘッドの画質が悪かった原因はカメラのナニワでいろいろ調査したところ、コスタリカのココ島と比較すると深度が深いため水中が暗かったこと、そして被写体との距離が遠過ぎてズームアップを多用したためと分かりました。今までの主な作品を長期保存するため、SONYデジタルデッキを使用して、デジタルテープからDVD録画機へダビングしたところ、1本あたり3~4箇所デジタル不良(音楽や映像が飛ぶ現象)が発生しました。

カメラのナニワへDVD録画機とSONYデジタルデッキを持ち込んで徹底的に調べたところ、購入したDVD録画機のメーカーと同じ系列のビクターのデジタルデッキから音楽だけは正常にダビングできましたが、映像が若干歪むところが出ました。

SONYへSONYデジタルデッキとカセットの調査及び修理を依頼しましたが、1回目のデッキ修理完了後のダビング結果は修理前とまったく同じでした。そして2回目はカセットの電圧をアップさせて修理して返却されましたが、ダビング結果はまたもや修理前とまったく同じだったため、カメラのナニワがSONYテープ製作会社へテープを送り修理依頼をしましたが、これも結局駄目で、SONYは完全にギブアップしました。

約5年程前から将来のことを考慮して、今までの主な作品5本を長期保存するため、カメラのナニワでDVD-Rにダビングしていました。

このDVD-RからDVD録画機へダビングしたところ録画不可になりカメラのナニワでDVD-Rを調べたところ、何か変な信号が入っていることが分かりました。

当時、カメラのナニワにてダビングで使用したパイオニアへDVD-R5枚を送り、復旧作業が11月に完了しました。

また、5本の内の2本に音楽が全く入っていませんでした。

この2本はデジタルカメラが無い時代の作品で、編集済オリジナルはSVHSでしたが、カメラのナニワでDVD-Rへダビング依頼した時にアフレコした音楽を社員のミスで入れるのを忘れていました。

この2本の音楽をオリジナルSVHSからDVD-Rの映像にカメラのナニワのパソコンで合体させ、結局5本すべてがDVD録画機(DIGA)へ復活しました。

12月下旬にカメラのナニワでSONYデジタルデッキからパイオニアのDVD録画機へ過去に編集したデジタルテープが完璧にダビングできることが分かり、結局2台目のDVD録画機を購入しました。

そして2004年1月にやっとDVD録画機へガラパゴスと過去の主な作品5本のダビングが完了し、半年間のDVDとの戦いが終了しました。

今回の一連の作業で一生懸命自分のことのように苦労して戴いたカメラのナニワの社員には大変感謝しています。また今までカメラのナニワで買っていて本当に良かったと思っています。今後も末永くお付き合いをしていきます。

以上
浜谷 優